

# 第3次 名張市地域福祉活動計画 見直し計画

2018年度～2019年度

ともに支えあう  
暮らしやすい地域づくり



社会福祉法人

名張市社会福祉協議会



# はじめに

少子高齢、人口減少社会が進展するなかで、高齢者世帯や単身世帯の増加による家族機能の変化、福祉課題の深刻化や複雑化、社会的孤立や制度の狭間などの問題が表面化してきています。

制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が我が事として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて丸ごとつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていく「地域共生社会」の実現に向けて、地域で課題を解決していく地域力、互いにささえあい共生していけるような地域の福祉力を高める取組みが求められています。

名張市社会福祉協議会はこうした状況を踏まえ、市の地域福祉教育総合支援システムや市内の社会福祉法人との連携を強化し、さらなる地域福祉の推進を目指し、このほど地域福祉活動計画の見直しをすることと致しました。

「第3次名張市地域福祉活動計画見直し計画」では、ともに支えあう暮らしやすい地域づくりを目標に、地域福祉の推進に邁進して参る所存でございます。

見直しにあたり、ご指導いただきました推進委員会の皆様をはじめ、多くの方々にご協力賜りましたこと心から感謝申し上げます。引き続きましてのご支援ご協力をお願い申し上げ、ごあいさつと致します。

平成30年3月

社会福祉法人 名張市社会福祉協議会  
会 長 奥 村 和 子

# 目次

## 第1章 第3次名張市地域福祉活動計画の見直しにあたって

- 1. 計画見直しの背景と目的 3
- 2. 計画の期間
- 3. 計画見直しのポイント

## 第2章 第3次地域福祉活動計画（前期）の取組み状況と今後の課題

5

## 第3章 計画の基本的な体系

8

## 第4章 重点事業

---

### 重点事業1 くらし応援ネットワーク事業～身近な地域で支えあう暮らし支援活動の推進

- 推進項目 1. 地域における福祉ニーズの把握 10
- 推進項目 2. 課題解決に向けた共有の場づくり
- 推進項目 3. 地域における公益的な取組みの推進

---

### 重点事業2 ボランティアセンター事業～生き活きと活躍する担い手の育成

- 推進項目 1. 活動へのきっかけづくり 11
- 推進項目 2. 担い手の育成、活動支援
- 推進項目 3. 災害ボランティアセンターの運営

---

### 重点事業3 なばり暮らしあんしんセンター事業～地域福祉ですすめるセーフティネット

- 推進項目 1. 相談支援体制の強化 13
- 推進項目 2. 地域住民等とすすめる個別支援

## 資料編

- 1. 名張市地域福祉活動計画推進委員会 14
- 2. 平成29年度 地域福祉推進懇談会 16
- 3. 平成29年度 組織構成会員種別会 34

# 第 1 章

## 第 3 次名張市地域福祉活動計画の見直しにあたって

### 1. 計画見直しの背景と目的

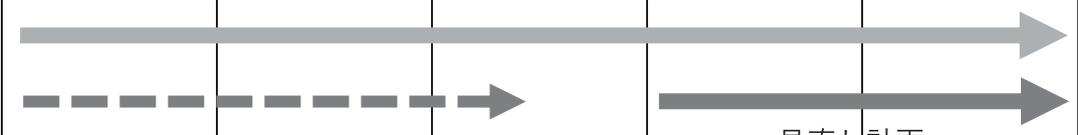
第 3 次地域福祉活動計画では、地域における福祉ニーズの把握と課題解決に向けたネットワークの構築、担い手の育成、生活困窮者支援を重点に取組みをすすめてきました。

そのなかで、社会福祉法人制度改革や地域共生社会の実現に向けた施策などの社会的背景をうけ、名張市における包括的な相談支援体制づくりとあわせて住民主体の地域課題解決体制を強化していくために、従来の「小地域ネットワーク事業」を「くらし応援ネットワーク事業」として再スタートしました。支援を必要とされている方々や地域福祉活動団体等のそれぞれの福祉ニーズに応じていけるよう、社会福祉法人による新たなネットワークづくりをはじめ、従来のニーズ把握から調整や資源開発等の強化が求められています。

地域住民をはじめとする関係団体等と 2018 年度からどのような取組みを推進していけばよいか、地域福祉活動実践者等の声や施策動向も踏まえたうえで地域福祉活動計画の見直しを行うこととしました。

### 2. 計画の期間

見直し計画の期間は、2018 年度から 2019 年度の 2 ヶ年とします。

	2015 年度 (平成 27 年度)	2016 年度 (平成 28 年度)	2017 年度 (平成 29 年度)	2018 年度 (平成 30 年度)	2019 年度 (平成 31 年度)
第 3 次 地域福祉活動 計画期間					

### 3. 計画見直しのポイント

前述の社会的背景の変化のなか、計画を見直すにあたっては、名張市社協としての役割を再確認し、社協として取り組むべき事業を明確にしていくこととしました。

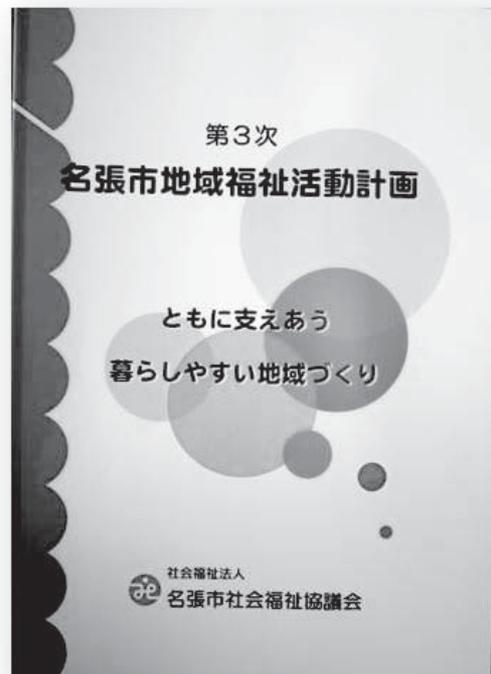
見直し計画では基本理念と基本目標はそのままに、社協の主軸となる地域福祉事業の名称を「重点事業」として掲げ、本計画における重点事業の表現をサブタイトルとしました。

重点事業1	身近な地域で支えあう 暮らし支援活動の推進	⇒	くらし応援ネットワーク事業
重点事業2	生き活きと活躍する担い手の育成	⇒	ボランティアセンター事業
重点事業3	地域福祉ですすめる 生活困窮者支援	⇒	なばり暮らしあんしんセンター事業

また、各事業の進捗状況に基づいて「推進項目」を整理し、具体的な取組みを「取組み内容」として体系の整理をしました。

そして、15の各地域づくり組織の協力のもと「地域福祉推進懇談会」を開催し、各地域での実践状況や福祉的課題を共有したなかで、計画前期の取組み状況のふり返りと合わせて、後期2ヵ年において地域とともに重点的にすすめる地域福祉活動を検討し、計画に盛り込むこととしました。

なお、計画初年度からの進捗管理並びに計画見直しにあたっては、名張市地域福祉活動計画推進委員会ですすめました。



## 第2章

### 第3次地域福祉活動計画（前期）の取組み状況と今後の課題

第3次地域福祉活動計画の前期となる2015年度（平成27年度）から2017年度（平成29年度）上半期まで、次のとおり取組みをすすめました。

#### 重点事業1 身近な地域で支えあう暮らし支援活動の推進

具体的な取組み	実施状況	見直し計画
地域づくり組織等の会議や行事等への参画・相談支援、ふれあいいきいきサロン等への支援	15全ての地域へ参画・相談支援を行い、のべ件数はいずれの年度も600~700件となりました。特にH29からは地域担当3名（ひとり5~6地域）を専任としたことで、会議や事業へ参画する件数は大幅に増加しています。	重点1-1
まちの保健室等との連携	救急医療情報キットによる見守り支援連携を行い、H28からはまちじゅう元気プロジェクトによる連携や地域の社会資源情報収集・提供を行っています。	重点1-1
救急医療情報キットの普及啓発・更新確認によるニーズ把握	民生委員児童委員協議会やまちの保健室、地域づくり組織との協力体制のもと実施し、利用者数は5,000名近くになっています。	重点1-1
把握したニーズの整理・課題化	地域の各活動者とのニーズ共有は行えており、現在課題化への整理を行っています。	重点1-2
地域づくり組織福祉担当部門等との課題共有・企画協議	地域ささえあい活動やまちじゅう元気プロジェクト、区長会など各会議等へ参画し、特に7地域では課題共有や解決に向けた協議等をともに行っています。	重点1-2
地域ケア会議への参画・支援困難事例への協働対応	H28よりケースカンファレンスへの参加を通じて、関係機関との連携や役割の確認が行えるようになってきていますが、参画の頻度はまだ多くありません。	重点3-1
各種連絡会の開催	配食ボランティア他5つの連絡会をのべ10回開催しています。	重点1-2
地域での見守りのしくみの構築・連携協議	H28より地域での見守り活動の人材育成や場づくりとしてスクエアステップサロンを推進し、リーダーの養成や実践活動支援を行い、H29には7地域で取り組まれるようになりました。	重点1-1 重点2-2
生活支援の活動情報整理・情報交換等の場の開催・サービス創出検討	地域ささえあい活動連絡会には準備中も含め8~10団体が集まり、情報交換の場として役割を果たしていますが、各団体が抱える課題解決に向けてもともに検討しています。	重点1-1 重点1-2
生活困窮者等の支援等深刻な生活課題の解決に向けた連絡会議等への参加	連絡会議が未設置で参加できていませんが、H29からは就労訓練事業実施施設と就労支援におけるあり方検討を行っています。	重点3-1

〔成果と課題〕

スクエアステップサロンや各種連絡会の実施により、地域での見守り活動における人材育成や課題の共有を図り、新たな活動者とのネットワーク構築にもつながりました。また、配食ボランティア活動等長年地域の福祉活動を支えてきた活動の継続問題に対して地域とともに協議しており、地域の課題解決に向けた協議の場で、社協の役割をどう果たすかが課題となります。

**重点事業 2 生き生きと活躍する担い手の育成**

具体的な取組み	実施状況	見直し計画
体験教室等人材発掘のきっかけとなるイベント実施、担い手の育成メニューとなるイベント等実施、高齢者が参加しやすい活動の場づくり	趣味特技を活かしたボランティア活動の場としてイベントを行っています。活動の場の提供にはなっていますが、人材発掘までにはまだつながっていません。イベント実施のボランティアはいるものの、イベント数は増えにくい状況にあります。また、イオン名張店や同友店会へイベントの共催についても提案していきましました。	重点2-1
子どもや親子等を対象とした交流・体験教室の開催	イベント企画は親子等が参加しやすいものも多く、参加者へセンターやボランティア活動の紹介など啓発を行っています。また「おもちゃばこ」事業では、見守りのなかで専門的な関わりが必要だと思われる親子について支援機関へつなげています。	重点2-1
必要とされる活動のテーマ検討・講座企画	H27から防災と傾聴のボランティア養成を行い、H29には活動者のフォローアップに取り組みました。H29からはかがやきと共催で子育て支援員養成を行っています。	重点2-2 重点2-3
生活支援ボランティアの育成・見守り支援員の育成、(仮称)地域生活支援サポーターの養成	生活支援ボランティアや見守り支援員の直接育成は行いませんでしたが、スクエアステップリーダー養成は毎年実施し、各地域でのスクエアステップサロン活動につながっています。またH28には、生活支援活動に向けた実践として傾聴ボランティアによる買物支援を試行実施しました。	重点2-2
地域ささえあい活動の立ち上げ支援	H27美旗、H28薦原で立ち上がり、H30実施に向けて梅が丘と赤目で準備活動が行われています。	重点1-2 重点2-2
生活支援活動の展開	H28からの傾聴ボランティア活動は、高齢者施設6ヵ所へ定期的に訪問し、今後は在宅訪問の可能性を検討しています。	重点2-2
活動者対象の研修実施	配食や傾聴の各ボランティアを対象に年3~5回程度研修を行い、また災害ボランティアとの訓練も実施しています。	重点2-2 重点2-3

〔成果と課題〕

福祉まちづくりセンターはきっかけづくりの場として有効ではありますが、利用者増には結びつきにくい現状があります。また、人材育成においては、防災・傾聴・スクエアステップリーダーなどボランティアの主体的な活動につながったことが成果としてあげられます。今後は、さら

に活動者へのフォローアップに力を入れることや、地域ささえあい活動等地域における福祉活動ではコーディネーターのように中核的な役割を担う人材の確保が課題と考えられます。

### 重点事業3 地域福祉ですすめる生活困窮者支援

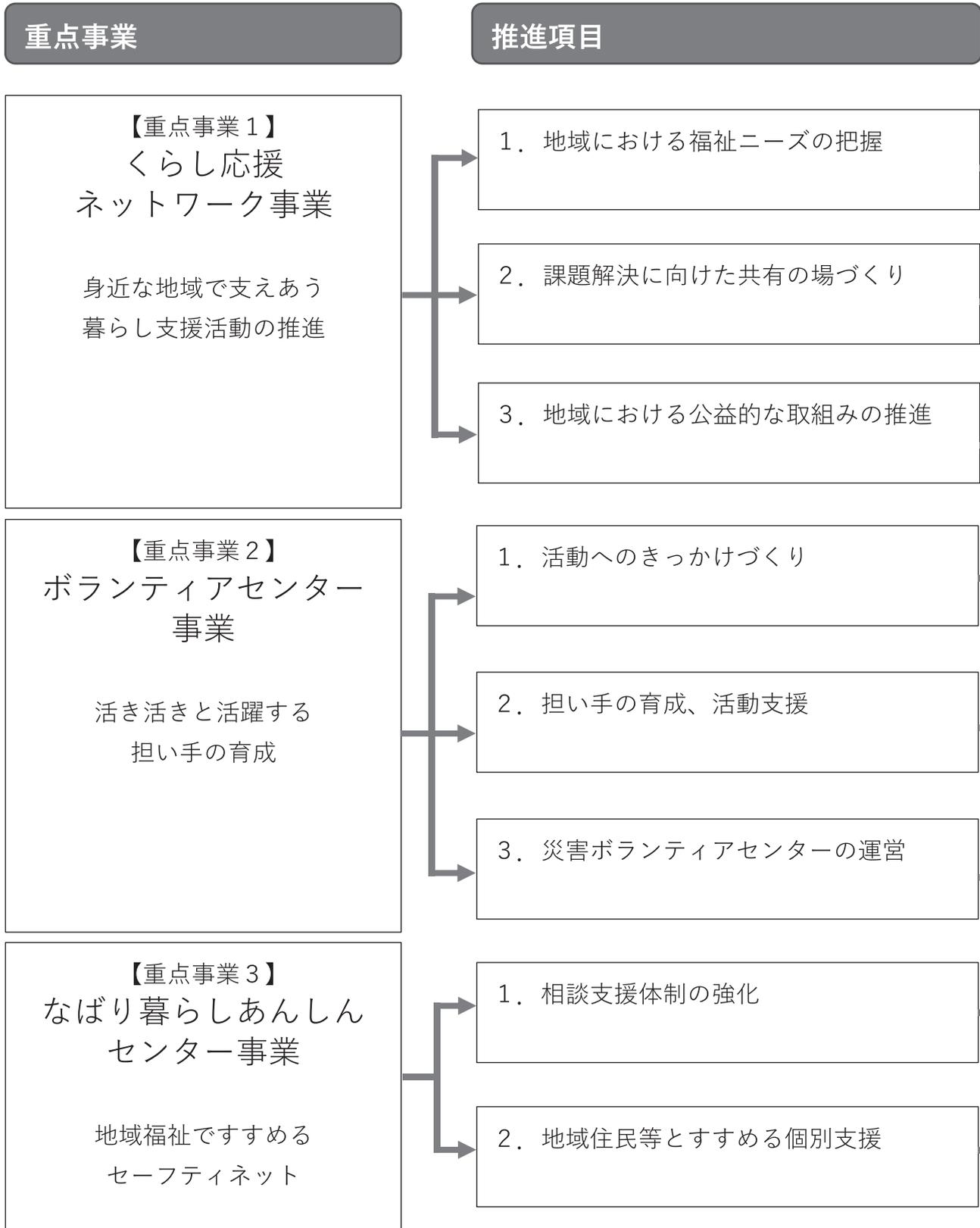
具体的な取組み	実施状況	見直し計画
「なばり暮らしあんしんセンター」の周知・啓発	H27よりパンフレットを作成し、事業説明は依頼に応じて行っています。	重点3-1
生活困窮者自立促進支援推進協議会（仮称）設置	協議会の具体的な設置には至っていませんが、就労支援に関わる関係機関との協議の場を検討しています。	重点3-1
無料職業紹介所の開設	H27に開設しました。市内事業所への登録周知を行い、H29には4件の求人登録がありました。社協での直接職業紹介よりも、ハローワークとの連携により就労支援は行えています。	目標達成
多様な就労体験先の拡充（就労準備支援事業メニューの確立・拡充）	社会福祉法人やNPO、一般企業の協力を得て、協力事業所数は3年間で8カ所となりました。就労体験は対象者とのマッチングによりいくつかの協力事業所で行いました。	重点3-2
社会福祉法人等による就労訓練事業の実施・拡大	H28より社会福祉法人による就労訓練事業が1カ所開始されました。	重点3-2
フードバンク等の検討・設置	三重県社協の事業と連携しながら、名張市社協独自事業を検討しH29より「ふれあい“絆”事業」として運用を開始しました。	目標達成
支援調整会議での支援内容の評価・振返りの実施	毎月1回定期的に開催しており、市生活支援室をはじめ地域包括支援センター等多機関多職種で支援調整を行っています。	重点3-1
地域ケア会議等への参画（困難事例への対応）	ケースカンファレンス等への参加を積極的に行い困難事例へ対応しています。	重点3-1
日常生活自立支援事業にかかる生活支援員の養成	毎年養成講座を実施しています。H27とH28で47名が修了しうち登録者は27名、H28実績では活動開始3名で、支援員対応率は84%となりました。	重点3-2
法人後見啓発事業の実施	毎年研修会を実施しています。H28とH29では「親なきあと問題」をテーマとし、研修後の茶話会では法人後見について意見交換を行いました。	重点3-2
緊急時体制・対応マニュアルの整備	継続支援のなかで、夕方以降や休日での対応が必要となっている状況があります。法人後見事業では緊急対応マニュアルを作成し運用しています。	重点3-2

#### 〔成果と課題〕

世帯や家族関係の中に複数の問題を抱える相談者が増えており、関係機関とお互いの役割を確認しながらさまざまな支援策を講じ、社協独自事業も立ち上げながら支援を行っていますが、より充実させるためには専門職の確保と専門性をもったより良い支援が求められます。

# 第3章

## 計画の基本的な体系



基本  
理念

誰もが 住み慣れたまちで  
安心して 自分らしく 暮らせる 福祉のまちづくり

基本  
目標

ともに支えあう 暮らしやすい地域づくり

取組み内容

- 地域担当職員による各地域の福祉ニーズの把握
- サロン等見守り活動団体との連携による福祉ニーズの把握
- 救急医療情報キットの普及啓発、更新確認によるニーズ把握

- 新規
- 地域福祉推進懇談会の開催
  - 地域福祉課題の解決に向けた活動支援
  - 活動者同士等の各種連絡会・委員会の開催

- 新規  
強化
- 社会福祉法人連絡会を通じた法人と地域等との連携づくり
  - 名張市社協事業「ふれあい“絆”事業」の効果的な運用

- 強化
- ボランティアや福祉施設等との交流、体験教室の実施
  - ふれあいフェスティバルの開催

- 傾聴ボランティアの養成・スキルアップ研修
  - スクエアステップリーダーの養成
  - こども支援センターかがやきとの協働による子育て支援員の養成
- 強化
- 活動者を対象としたスキルアップ研修・交流会の開催
- 新規
- ミドルエイジの地域活動デビュー企画

- 新規
- 災害ボランティアセンターの運営
- 新規
- 防災ボランティアに関する訓練や研修会の開催

- 強化
- 地域ケア会議等関係機関との協議の場への参画を通じた、困難事例への対応協議・連携

- 強化
- 必要な人へ必要な情報を届けるための、関係者等への周知啓発

- 生活困窮者就労準備等における事業協力者の拡充
  - 日常生活自立支援事業の体制強化（生活支援員の養成）
  - 法人後見啓発事業の実施
- 新規
- 名張市における法人後見受任体制のあり方検討